

Kumamoto University Library Bulletin, No.15, October. 1996

- 福田令寿著「游泳陪觀記」を読む

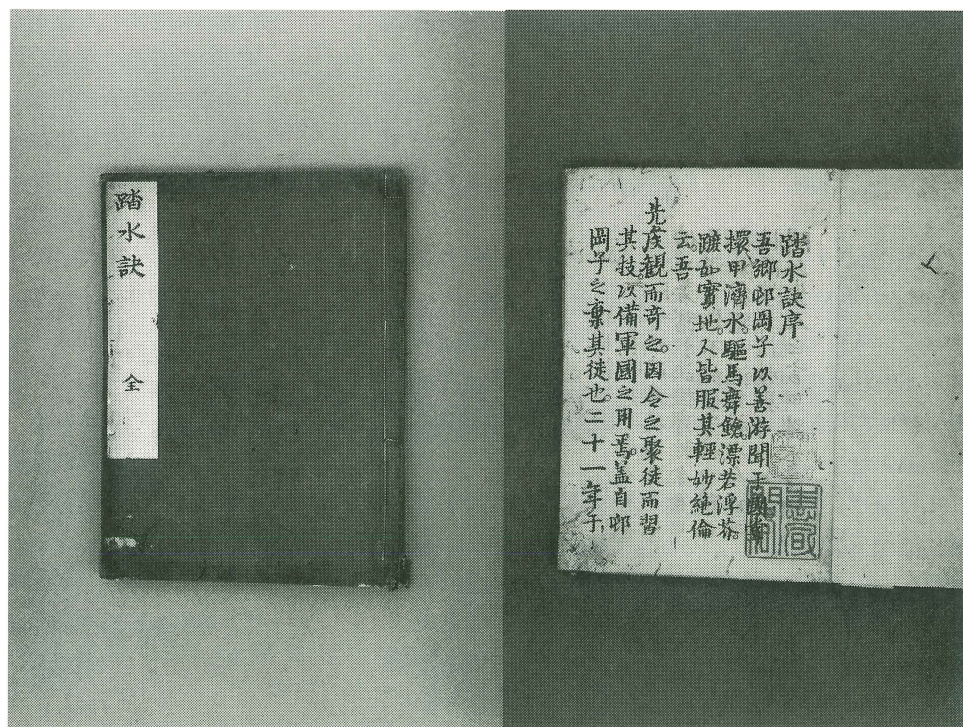
熊本大学附属図書館寄託永青文庫の貴重書（三）

- 伝藤原定家筆『詠歌大概抄・秀哥大畧抄』と『歌合類聚』

- 図書館職員長期研修をおえて

学術情報提供システム紹介

- MEDLINE II



「踏水訣」小堀長順著（永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託）

## 福田令寿著「游泳陪観記」を読む

小川 尚

明治40年(1907)4月エジンバラ大学名誉教授サー・アレクサンダー・ラッセル・シンプソン博士(1935-1916)が熊本を訪れた。彼はクロロホルムを初めて麻酔に応用したことで高名なサー・ジェームス・ヤング・シンプソン前エジンバラ大学教授(1811-1870)の甥で、叔父の死後35歳の若さでその教授の席を継ぎ、同大学医学部産婦人科教授として35年間勤め、王立救急病院 Royal Infirmary と王立産院 Royal Maternity Hospital にもオフィスを持ち、世界の優れた産婦人科医を養成してきたのである。サー・アレクサンダーは大変信仰の厚い人で、手術前にもお祈りをした程である。既に2年前に大学を辞し、予て属していた United Free Church of Scotland の宣教師としてこの度インドとシナを旅したが、その途中東京で開かれたキリスト教青年世界大会にも出席し、日本に20余日滞在した。かつて同博士の下で産科婦人科学を学んだ福田令寿(よしのぶ)氏は通訳を兼ねて各地を案内し、熊本にもお連れしたのである。

4月17日、熊本では、この偉大な産婦人科医サー・アレクサンダーを迎えるに当たり、東肥医学会会長山崎正薫氏(熊本医学校産婦人科教授、後の熊本医科大学学長)は高瀬駅から上熊本駅まで、サー・アレクサンダーの客車に同乗して歓迎の意を表した。同日東肥医学会春季総会を開き、サー・アレクサンダーは「医家の回想」と題して、近來の医術の進歩について話をした。

福田氏は、サー・アレクサンダーが新渡戸稲造著「武士道」を読んでいて、日本の武士道の真髓について知りたいと思っていると察し、流鏑馬と游泳術を見せた。両方とも細川藩の武術であって、現在熊本県の無形文化財に指定されていて、火の国祭りの期間熊本城で披露されている。

4月18日、午前中水前寺成趣園で流鏑馬を見、正午近くに船で江津橋まで下り游泳術を見た。この游泳術は現在小堀流踏水術と称されているもので、猿木宗那第6代師範の高弟が御前游(ごぜんおよぎ)に始まり幾つかの游泳を披露した後、最後に猿木宗那師範が浮身六体を行い、更に浮身書(水に浮いたまま字を書く)で「水月」と書いた。水月の意味(無心)をサー・ア

レクサンダーに問われて、詳しく説明したところ、自身の信仰している宗教と同じであるが未だその境地に達していないと言って感心したという。

この出来事は、猿木宗那師範にとっても記念すべきことであつたらしく、本妙寺裏山市営墓地に建つ同師範を賛える墓碑にも書かれている。

書名からも分かるように、福田氏はこの書の大半を小堀流踏水術披露に費やしているが、出版したものがどうか不明である。数年前猿木恭経第十代師範のご好意で見せて頂いた。

2年前文部省短期在外研究員として欧米の大学を訪問したおり、20年前に滞在したエジンバラ大学を訪ね、知人でエジンバラ大学名誉教授A・イゴー博士のご協力を得て、サー・アレクサンダーに関係することを調べてみた。サー・ジェームスについては全身麻酔の創始者(華岡青州の方が実際は早い)としてプリンセス通を始めエジンバラ市内の至る所に銅像を建て顕彰してあつたが、サー・アレクサンダーのものではなく、The Royal College of Physicians, Edinburgh で初めてポートレートと弔辞を目にすることができた。彼は1916年自動車に轢かれた傷がもとで、以前勤めたことのある王立救急病院で亡くなられた。享年90歳であつた。

著者の福田令寿氏は明治6年1月蘭方医福田杏春の四男として現在の松橋町豊福に生まれ、同24年草場町教会で洗礼を受け、25年熊本英学校卒業後渡英し、33年7月エジンバラ大学医学部を卒業、熊本に帰られてからは医師会関係のみならず教育(例えば熊本医学校や五高の嘱託)や福祉関係にも活動された。後に熊本県教育委員長(昭和24年第二代)も勤められ、熊本市名誉市民(昭和34年)となられ、昭和48年满100才で老人性肺炎で逝去された。

最後に、小堀流踏水術は細川藩上士の習得すべき武術の一つで、時習館設立時に命じられた初代師範は小堀長順(茶道師範を兼ねる)である。同氏の書いた世界最初の水泳書「踏水訣」は永青文庫に収められていて、本学図書館本館で原著を見ることが出来る。

(おがわ ひさし 医学部教授 生理学)

# 熊本大学附属図書館寄託 永青文庫の貴重書（三） 『詠歌大概抄・秀哥大畧抄』と『歌合類聚』

荒木 尚

宮内庁書陵部（東京都千代田区）には智仁親王（八条宮。後陽成天皇の弟）の質問に答えた細川幽斎自筆の書状「歌口伝心持状」一通が蔵されている。そのなかで幽斎は、

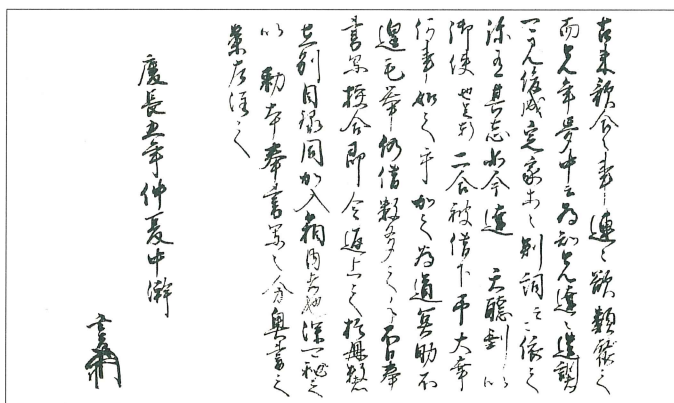
歌をよむ故実におゐては、詠歌大概に過たること御座あるまじく候。その外、定家の被書置たるものどもの歌以下可被付御心候

と述べている。定家歌論の真髓とされる『詠歌大概』を重視するこの発言は、藤原定家以降、和歌・歌学を志すほどの者は、すべて定家が基点であり、学ぶべき存在として認識されていたために他ならない。

天正7年(1579)1月、古今相伝の証明書を幽斎に与えた三光院三条西実枝が没すると、幽斎の周辺には、和歌・歌学の指導的立場にいるような人々はほとんど

いなくなった。幽斎は自然、伝受者から伝授者に転じ、歌道の指導的な場に出て、自ら求めて歌学や古典の世界に分け入っていくことになるのである。そこで幽斎は先行の歌学書や歌合、古典類を博捜し、その正当な受容に努め、二条家流の末裔としての地歩を固めていく。今回は永青文庫に蔵される『詠歌大概抄・秀哥大畧抄』と『歌合類聚』をとりあげる。

『詠歌大概』は作歌の原理と方法を簡潔明確に解く漢文体の歌論と「秀歌躰大略」と題する秀歌例とから成っていて、定家六十代の著作と考えられている。室町期から江戸期にかけて尊重され、多くの注釈書が著されたが、幽斎の『詠歌大概抄』は、それまでの『詠歌大概』注釈を集大成したものとして、近世の注釈書に影響を与えた。『詠歌大概抄』は天正14年（1586）8



古来歌合之事連々欲類聚之、而先年夢中云、為知先達之遺訓者、可見俊成定家等之判詞云々、依之弥有其志、如今達 天聽刺以御使也足軒二合被借下、予大幸何事如之乎、加之為道冥助不遑毛舉、仍借数多之手不日奉書写校合、即令返上之、於册数者在別目錄、同加入箱内者也、深可秘之、以 勅本奉書写之分與書之案左注之

慶長五年仲夏中澣

玄旨(花押)

[ I ] 永青文庫蔵『天徳歌合』奥書  
慶長5年4月中に書写させ、校合した歌合類のなかの一冊の最後に記す奥書で、幽斎の筆になるもの。袋綴一冊。縦25.6センチ、横20.2センチ。

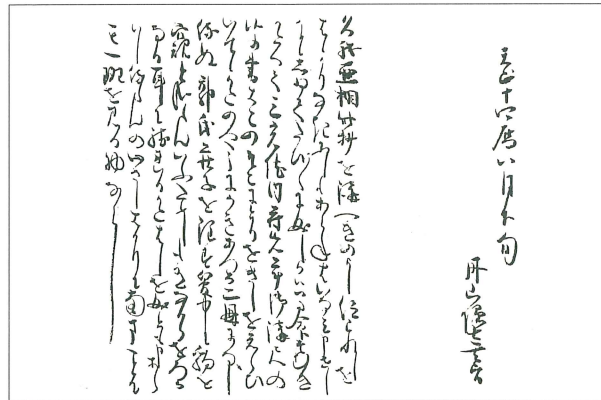
月に三条西実枝から受けた『詠歌大概』講釈の聞き書きをまとめたもので、永青文庫本は幽斎の真跡とする証文を添えて細川家に伝存し、その最も初原的な本文形態を伝える証本として貴重な伝本である。ただ、その筆跡からすれば、幽斎筆本の転写本と思われる。

[ II ]はその成立事情を伝える幽斎の奥書で、権大納言久我敦通（時に22歳）からのたびたびにわたる要請に背きがたく、三光院内大臣（実枝）の御講釈の聞き書きを編んだことを記している。のちに、文禄のはじめごろ、後陽成天皇・八条宮智仁親王等がこれを求めて自ら筆を染めるほどにもてはやされた。

慶長の初期ごろ、幽斎は文事に多忙であった。幽斎は歌合を、古人の和歌批判をそのまま聞くことができるものとして重宝がった。左右に分けた歌人の歌を組み合わせて優劣を判定したこの文学行事は、和歌および歌論の発達を促す重要な契機となったものである。幽斎はすでに数篇の歌合を写していたが、慶長5年（1600）4月、さらに皇室所蔵の歌合類を借り出し、高

弟たちの協力によって書写し校合を加えた。[ I ]はその中の一冊『天徳歌合』の最後に記す幽斎自筆の奥書である。俊成・定家ら歌道の先達の判詞は和歌修学の大事と考えて歌合の類集を願ったこと、その素志が後陽成天皇の聞くところとなり、歌合類を写し得たことを神仏の助けといい、感慨の深さを吐露している。この時、書写した歌合は合わせて44篇、いずれも平安鎌倉期の重要な歌合を網羅しており、加えて皇室相伝の善本ばかりで資料的価値もきわめて高い。『日本古典文学大系』（岩波書店）や『新編国歌大観』（角川書店）などの叢書に、底本および校訂本として用いられているものが多いのもそのためである。幽斎は『耳底記』において、「歌合ほど重宝なる物はあらじ。古人の批判を直に聞く心なり。歌合といふ歌合にわが見ぬは無きなり」と述べ、自信のほどを書きつけている。

（あらかし ひさし 文学部教授 国文学）



天正十四曆八月下旬  
丹山隠士玄旨

久我重相此抄を講べきのよし仰られしを、はかりなきにしもあらねばいなみ申せしかど、しあてたび／＼に成しかば、尊命そむきがたくて、三光院内府先年御講尺の聞書、はこのそにとりをきしをえらびいで、かたのやうにかきあつめ、二冊になし侍ぬ、郭氏莊子を注す管中に豹を窺と哉らんいふためしも有ながら、をろかなる耳に残れるかたはしを成とも申あらはし侍らんの心ざしばかりに南、まことに其一斑を見る物ならし

[ II ] 永青文庫蔵『詠歌大概抄・秀哥大略抄』奥書  
本書の成立事情について述べたもの。幽斎はさらにその次頁にも、徳大寺前内相公維(1537-88)の尊命に応じ証本として書写した旨、記している。本書はその転写本。布表紙袋綴 2冊。縦25.7センチ、横20.5センチ。

## 図書館職員長期研修をおえて

安 陪 光 恭

去る7月15日から8月2日までの3週間文部省と図書館情報大学が主催するこの研修に参加させていただきました。

参加者は平均年齢39歳の、北は北海道から南は宮崎まで全国の国公私立大学の中核となる41名の図書館職員が集まり、図書館を取り巻く環境や、これからの図書館が進むべき方向性などについて図書館学の先生方や図書館職員の先達の方々からレクチャーを受け、研修生どうしで討議などを行いました。

この研修の様や講義概要については、さすがに情報化時代、すべてインターネット上のWWWで見ることができます。そう、図書館情報大学のホームページを経由して覗けるのです。アドレスは「[http://www.ulis.ac.jp/library/Jpnpg/choken\\_home.html](http://www.ulis.ac.jp/library/Jpnpg/choken_home.html)」です。この中には講義風景の写真も結構入っています。最初はカメラを顔から20cmくらい離して変わったカメラの写し方をしているなど思っていたら、これが電子カメラで直ぐにこのページに載せられていました。参加者は見ることが出来なかったのですが、送り出した大学図書館の人たちは研修生がしっかり講義を受けているか監視することが出来ていたのです（やばい！）。研修でどのような講義を受けてきたかは、このWWWで見てもらえば一目瞭然なのでここでは触れません。

前半は筑波学園都市にある図書館情報大学で、後半は新宿の直ぐ側にある代々木のオリンピック記念青少年センターに場所を移し、おじさん、おばさんにとっては？十年ぶりの固いイスに座っての90分講義という苦行に耐え、また、近郊の大学図書館や国立国会図書館、国文学研究資料館、学術情報センターなどを見学し、自分の大学図書館に取り入れられるものはないかと目を大きく開き、5時以降は、この研修のもう一つの目的であるヒューマンネットワーク構築を図るために、研修生どうしの今抱えている問題やその対処方、当日の講義内容について、夜遅くまで討議（？）しました。（どんな場所で、どんな格好でやったかは想像におまかせします。）そういえば、この時期アトランタオリンピックがあったですね。ゆっくりと見れなかったのが残念！

少し後戻りしますが、便利ですよ、このWWWは。そういえば、私がもらった講義要項とWWWの中の講

義要項と中身が少し違うんですね。答えは簡単です。渡された講義要項の原稿は締め切りが1ヶ月以上も前だったのです。講師は原稿提出後研修で何を話すか案を練るうちに最初の予定と違う内容になってしまい、講義をする前に要項の差し替えをしてしまったのです。予め印刷し配布する手間と時間がいらないので、簡単に差し替えが出来ます。もっとも作業をした研修事務局の方は大変だったでしょうが。

最近では講義・講演の中でOHPを使うことが増えています。私を含め黒板に字を書くのが下手だから、書くのに時間がかかるから、クラスが変わる度に何度も同じ事を黒板に書くのが面倒だからということもあるかもしれません。今回の研修もほとんどの講義でOHPが使われました。その中で、OHPの代わりに大型の投影型ディスプレイ装置を使い、パソコンデータを表示された講師がありました。見てたら個人のホームページ経由で自分のファイルを画面に呼び出しこれを見せながら話をされました。これって、新しい講義スタイルですよ。今回は無かったのですか、文字だけでなく、カラー画像を呼び出し、最初は全体像を表示し、次にその中の特定部分を拡大表示させることも出来ます。

ある講師は具体的に授業で、毎時間ごとの講義要項（シラバス）をホームページに用意し、受講する学生はまずこれを読み、そこに書いてある参考文献を図書館のOPACで検索して所在を調べ、貸出しの予約をしたり、文献複写の申し込みをして文献を取り寄せたりした上で授業を受けさせる計画を話されました。実現すれば、図書館の使われかたも変わってくるのだなと思いました。

でも、今回の研修の中で一番印象に残った講義は、カール・ベッカーという先生が教卓の前で話をするのではなく、教壇の上を黒板の右端から左端まで動き回り、ジェスチャーを交えながら話された講義だったということ伝えて、研修の報告を終わります。

（あべ みつやす 医学部分館整理係長）

## 図書館諸統計（平成7年度）

### I 受入統計

#### ① 年間受入

		中央図書館			医学部分館			薬学部分館			計
		購 入	寄贈・その他	小 計	購 入	寄贈・その他	小 計	購 入	寄贈・その他	小 計	
図 書	和漢書	9,472	1,641	11,113	103	298	401	165	78	243	11,757
	洋書	4,217	2,247	6,464	140	1,622	1,762	65	489	554	8,780
	計	13,689	3,888	17,577	243	1,920	2,163	230	567	797	20,537
雑 誌	日本語	1,838	2,796	4,634	244	498	742	45	82	127	5,503
	外国語	1,531	328	1,859	583	52	635	82	3	85	2,579
	計	3,369	3,124	6,493	827	550	1,377	127	85	212	8,082
新 聞	日本語	10	16	26	4	4	8	6	3	9	43
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	13	21	34	5	4	9	6	3	9	52

#### ② 蔵 書

		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
		和漢書	653,622	68,236	14,769
図 書	洋書	312,839	91,857	17,577	422,273
	計	966,461	160,093	32,346	1,158,900
雑 誌	日本語	9,670	1,701	270	11,641
	外国語	3,386	1,833	267	5,486
	計	13,056	3,534	537	17,127

### II 利用統計

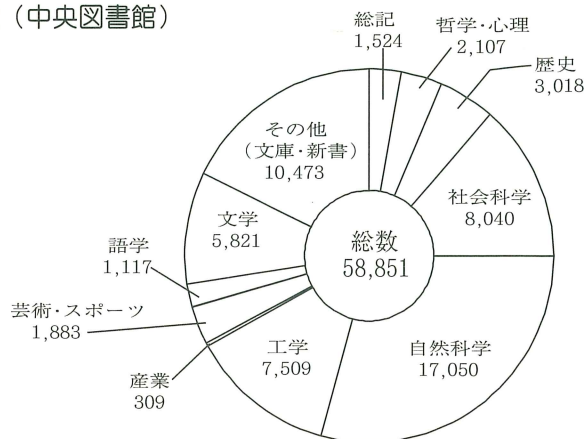
#### ① 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
開 館 日 数	267	279	276	822
時間外開館日数(内数)	214	224	221	659
入 館 者 数	405,769	118,882	86,945	611,596
時間外入館者数(内数)	78,307	38,545	21,817	138,669
貸 出 冊 数	58,851	9,278	1,473	69,602

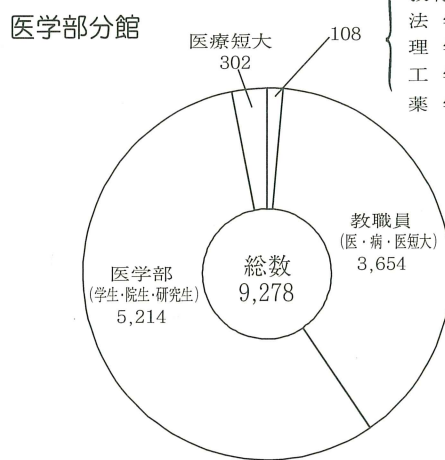
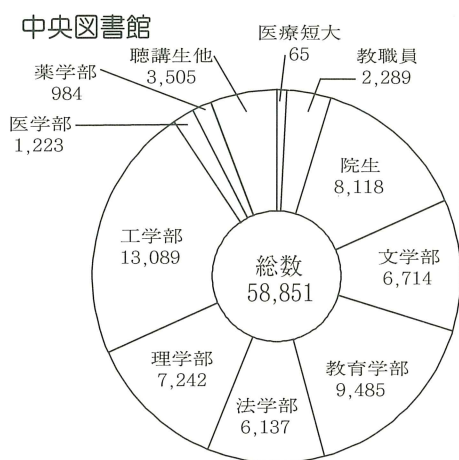
#### ② 身分別貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
学 部 生	46,724	3,320	895	50,939
院 生	8,324	1,292	436	10,052
そ の 他 学 生	1,107	1,003	5	2,115
教 職 員	2,696	3,663	137	6,496
計	58,851	9,278	1,473	69,602

③ 分野別貸出冊数（中央図書館）



④ 学部別貸出冊数（中央図書館、医学部分館）



文学部 6  
 教育学部 16  
 法学部 12  
 理学部 33  
 工学部 11  
 薬学部 30

⑤ 文献複写

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
学 外 依 頼	2,979	2,557	808	6,344
学 外 受 付	1,798	5,168	1,312	8,278
学 内 処 理	4,121	245	484	4,850

⑥ 相互貸借

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
依 頼	448	5	1	454
受 付	485	4	0	489

⑦ 特殊文庫（中央図書館）

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	18	158	10
利用冊数	240	4,798	327

⑧ 視聴覚資料・CD-ROM（中央図書館）

	視聴覚資料 <sup>※1</sup>	CD-ROM <sup>※2</sup>
利 用 件 数	334	240

※1 ビデオ、LD

※2 スタンドアロンのみ。H7.7～H8.3まで。

### Ⅲ 年次推移

#### ① 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	開館日数	入館者数	貸出冊数※2	開館日数	入館者数	貸出冊数※3	開館日数	入館者数	貸出冊数※2
平成3年度	276	35,346※1 318,029	6,267※1 39,779	294	107,314	15,824	289	69,134	1,138
平成4年度	256	351,976	52,441	283	106,113	10,882	279	72,725	1,030
平成5年度	265	365,052	57,669	276	92,318	8,943	277	90,835	976
平成6年度	265	381,238	56,591	279	105,421	9,516	276	74,807	1,078
平成7年度	267	405,769	58,851	279	118,882	9,278	276	86,945	1,473

※1 工学部分室（外数） ※2 図書のみ ※3 図書・雑誌

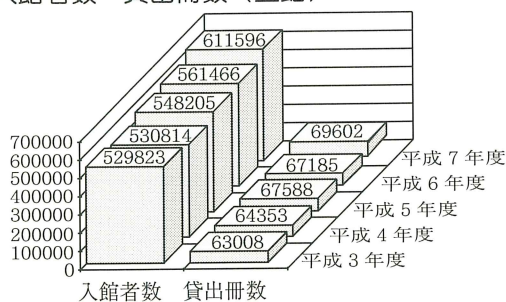
#### ② 文献複写

	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	学外依頼	学外受付	学内処理	学外依頼	学外受付	学内処理	学外依頼	学外受付	学内処理
平成3年度	2,931	1,921	4,189	918	3,366	322	303	265	404
平成4年度	3,603	2,178	2,002	916	4,426	244	299	581	440
平成5年度	2,996	2,340	4,685	1,724	5,109	263	420	1,025	345
平成6年度	3,473	1,597	4,087	2,137	5,117	277	638	1,152	257
平成7年度	2,979	1,798	4,121	2,557	5,168	245	808	1,312	484

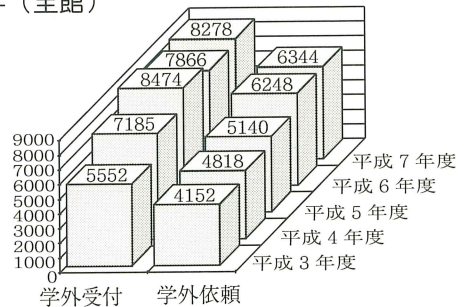
#### ③ 相互貸借

	中央図書館		医学部分館		薬学部分館	
	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
平成3年度	284	276	0	15	0	1
平成4年度	319	362	0	8	0	2
平成5年度	359	395	5	5	3	4
平成6年度	379	399	8	12	1	1
平成7年度	448	485	5	4	1	0

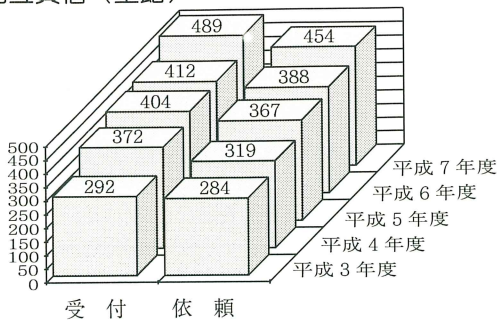
入館者数・貸出冊数（全館）



文献複写（全館）



相互貸借（全館）



CD-ROM（医学部分館）

Medline※		
	接続回数（回）	接続時間（分）
平成8年5月	301	2,133
平成8年6月	241	1,581
平成8年7月	230	919
平成8年8月	169	1,188
平成8年9月	64	616

※WWW経由の利用は除く。

Chemical Abstracts		
	接続回数（回）	接続時間（分）
平成8年5月	432	12,281
平成8年6月	97	6,177
平成8年7月	263	10,441
平成8年8月	135	4,341
平成8年9月	122	616

（平成8年9月10日時点）



## 目録システムとILLシステムの地域講習会を開催

附属図書館では、学術情報センターと共催で目録システム講習会とILLシステム講習会を開催しました。この講習会は、全国約450大学等で共同分担して目録業務の効率的処理を行うために利用している目録システムと、他大学等から複写物等を迅速に取り寄せて研究者等に提供するために利用しているILL(Inter-library Loan: 図書館間相互貸借)システムの操作法を習熟することを目的に実施しているもので、東京の学術情報センター以外に全国の大学等で地域講習会として開催されているものです。

本学でもこの地域講習会は例年開催していますが、今年は、目録システム講習会を6月3日～5日に、ILLシステムを6月6日～7日に実施し、本学職員以外にも県下、福岡、佐賀、長崎、大分の大学等の図書館員総数20名の受講がありました。

また、目録システム講習会に際し、学術情報センター事業部目録情報課の酒井目録専門員による「NACSIS-CATの現状と今後について」と題する講演会も開催され、近く予定されている新目録システムの開発状況や学術情報センターの新たな事業展開などが紹介され、市内の大学図書館員等が熱心に聴講しました。

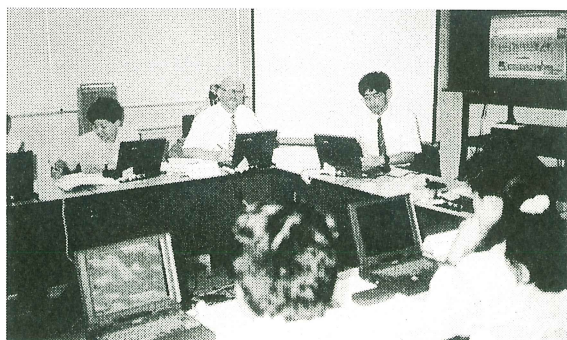
(情報管理課 目録係)

### 熊本県大学図書館協議会 実務者研修会

平成8年度熊本県大学図書館協議会実務者研修会が、8月6日、熊本大学附属図書館において開催されました。熊本県内の各大学・短大・高専、11機関の図書館実務担当者21名が参加しました。

研修会では、まず熊本県大学図書館協議会で先に作成しました相互協方便覧の報告とそれに基づいて、各図書館での実情報告、情報交換が行われました。午後からは、熊本大学附属図書館甲斐目録係長を講師として、学術情報センターの目録システム・相互利用システムについての説明と実習が行われました。それに続いて、今話題のインターネットをビデオを用いて紹介した後、20台のパソコンを使ってネットサーフィン体験していただきました。中小規模大学・短大からの大部分の参加者からは、「学術情報センターシステム、インターネットに初めてアクセスして、その便利さと可能性が実感できた」、「今後の図書館を考えるためにたいへん参考になった」、と好評が寄せられました。

(情報サービス課 参考係)



### 新規サービスのご案内

#### 利用者用ノート型パソコンの設置

中央館に利用者用ノート型パソコン13台を設置しました。インターネットを自由に利用することができます。そのほか、ワープロ、表計算、グラフ作成などのソフトも使えます。既に、多くの利用者がネットサーフィンを楽しんでいて、大人気の状態です。どうぞご利用下さい。

#### CD-ROMサーバー利用のご案内

このほど、CD-ROMサーバー(NT)にて『朝日新聞戦後50年見出しデータベース』と『Oxford English Dictionary』が、ご利用できるようになりました。研究室にお手持ちのパソコン(Windows OS)からご利用出来ます。利用ご希望の方は、図書館カウンター、もしくは参考係(内線2227、E-mail:lwwww@kumamot-o-u.ac.jp)まで申し込み下さい。

(情報サービス課 参考係)

# MEDLINE II

前号に引き続き医学文献情報 Medline の利用法についてご紹介します。Medline はインターネットからWWWブラウザを使っても検索できるようになっています。

## Medline 接続手順

利用にあたってはまずCD-ROMサービス利用申請書（図書館備付）を提出して、ログインIDを取得してください。原則として利用は学科（講座・研究室）単位です。

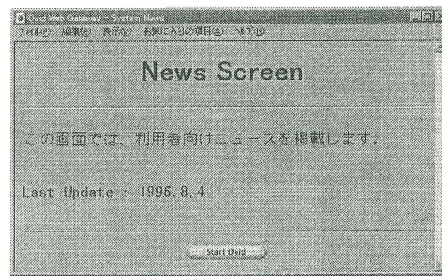
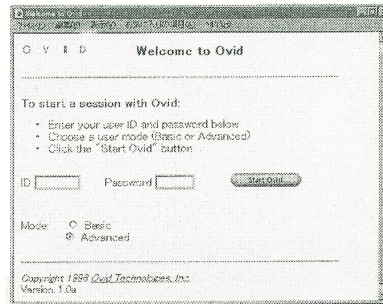
検索の実行には、まずWWWブラウザがインストールされている必要があります。例として Microsoft インターネットエクスプローラ Ver.4.40.425 を使って説明します。

URLは以下を指定してください。

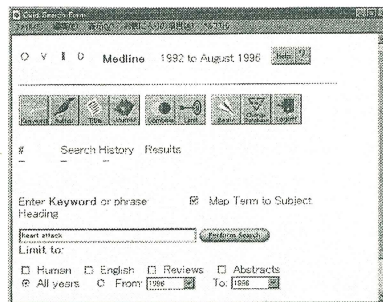
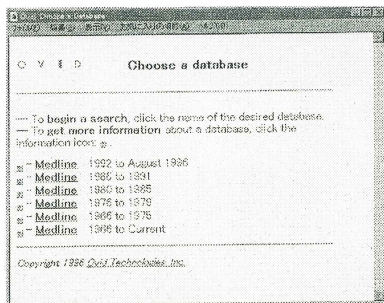
<http://aqua.medic.kumamoto-u.ac.jp/ovidweb/ovidweb.cgi>

## Medline 検索手順

接続に成功するとニュース画面が表示されます。

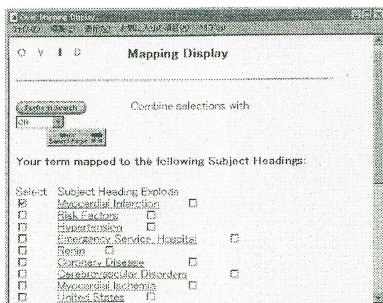


データベース選択画面が表示されます。目的の検索対象年代を選択してください。



基本検索画面が表示されます。

検索したい主題キーワードを入力して、Perform Search ボタンをクリックします。



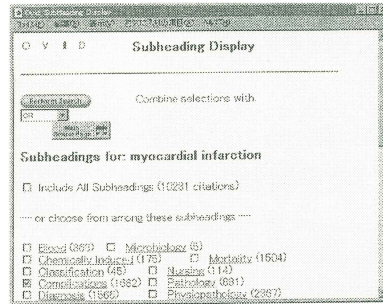
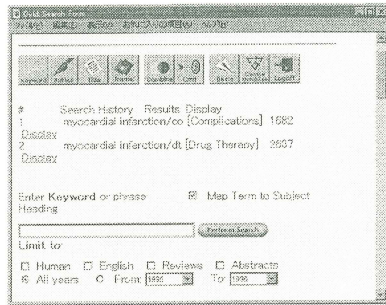
入力したキーワードから Medline を検索する上で最適な統制語（Medical Subject Headings : MeSH 語）に導かれます。

適当な MeSH 語を選択して、Perform Search ボタンをクリックします。

（Explodeを指定すると、そのMeSH 語の下位語を含んだ検索になります。）

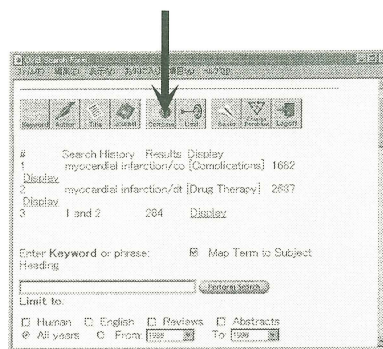
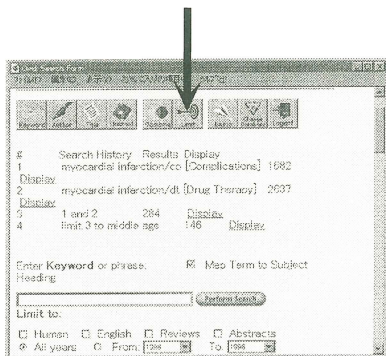
サブヘディングと呼ばれる統制された形容語句でさらに限定します。

適当なサブヘディングを選択して、Perform Search ボタンをクリックします。



これで基本検索画面にもどり、検索した文献集合ができました。同様の要領で検索をくりかえします。

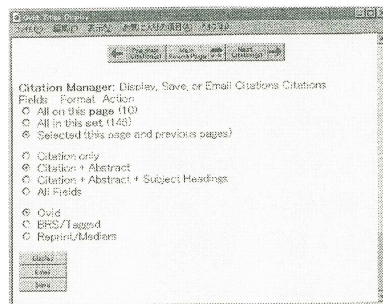
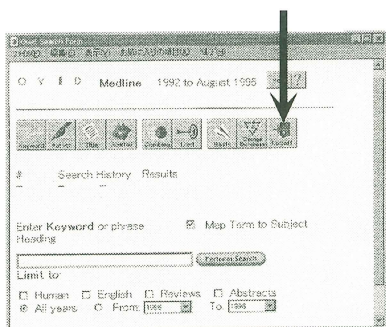
検索した集合どうしを掛け合わせたいときには Combine ボタンを使います。



さらにはオリジナル文献の言語、出版形態等で絞り込みを行いたいときには Limit ボタンを使います。

検索した結果は一覧リストとして画面下部に標示されます。詳細は画面最下部にある Citation Manager を使い、条件を設定して Display、E-mail、Save の中から適当なボタンをクリックします。

(プリントアウトしたいときはブラウザの印刷機能を利用して下さい。)



検索の終了。  
Logoff ボタンをクリックします。

(医学部分館 整理係)

## 人事異動

- 平成8.7.15 退職  
江崎 美佳  
(医学部分館整理係)
- 平成8.8.31 退職  
石井 義信  
(情報管理課総務係総務主任)

## お知らせ

「第13回熊本大学附属図書館特殊資料展並びに講演会」を、下記の要領で開催します。

又、休日開館を行っていますので、熊粋祭のオープンハウス企画としてもご利用下さい。

### 記

- 会 期：平成8年11月2日(土)～11月4日(月)  
期 間：10:00～16:00  
会 場：附属図書館自由閲覧室(B1F)  
テ ー マ：絵図でみる細川氏の領国支配  
出品資料：「慶長国絵図」「元禄国絵図」「天草海辺絵図」  
「肥前国島原津波之絵図」他  
講演会：演題「絵図でみる細川氏の領国支配」  
講 師 熊本大学文学部教授 松本寿三郎氏  
日 時 平成7年11月2日(土) 13:30～15:00  
会 場 会議室(2F)

### 校費によるコピー利用時間の変更

中央館での校費によるコピーの利用時間を延長しました。中央館の開館時間中は(平日 9:00～20:00、土曜、日曜、祝日 10:00-16:00)、校費によるコピーが利用できるようになりました。

編集後記：秋も深まり、あたたかいものが恋しい季節となりました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、と秋の楽しみ方は人それぞれですが、私はやっぱり“食欲の秋”が一番好きです。果物や新米やお芋などが美味しいこの季節、苦手なお料理にも挑戦してみよう、という気になってきます。

これから寒さが増してきますので、皆様もしっかり食べて、どうぞお健やかに過ごし下さい。

## 日誌(平成8.5.1～8.31)

- 5.1 附属図書館係長会議  
5.7 古典籍研修会  
5.9 熊本県大学図書館協議会(中央館)  
5.21 古典籍研修会  
5.23 附属図書館係長会議  
5.29 熊本県図書館連絡協議会(県立図書館)  
6.3 平成8年度目録システム地域講習会  
～5  
6.6 平成8年度ILLシステム地域講習会  
～7  
6.18 附属図書館係長会議  
〃 古典籍研修会  
6.21 附属図書館委員会  
7.2 第43回国立大学図書館協議会(於神奈川)  
～5  
7.2 古典籍研修会  
7.15 平成8年度大学図書館職員長期研修会  
～8.2(於筑波・東京)  
7.18 第7回九州地区医学図書館員セミナー(於福岡)  
～19  
7.24 附属図書館係長会議  
〃 増築プロジェクト委員会  
8.6 熊本県図書館連絡協議会  
平成8年度実務者研修会(中央館)  
8.8 学術情報センター早瀬課長、鹿児島大学附属図書館森園係長による附属図書館建築構想に係る講演会(中央館)  
8.29 平成8年度図書館等職員著作権実務講習会  
～30(於福岡)

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)※  
第15号(Vol.5 No.3) 平成8年10月発行

発行所 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪 2-40-1

TEL 096(342)2273 FAX 096(345)9087

HP <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>

編集 飯田典子・成田和則・中尾康朗・伊波ひとみ

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。